

事後評価報告書に含める事項

※事後評価報告書は、自由書式です。ファイル形式や項目の記載順等は各団体でお決め頂いて構いません。ただし、社会的インパクト評価の結果が理解できるよう、内容には以下の事項を含めるようにしてください。

報告書を提出する際は、助成システムに記載のある公開上の注意事項を確認の上、提出してください。

1. 表紙と目次

1 – 1. 表紙

※表紙には下記の情報を含めてください。

- 事業名
- 実行団体名
- 報告書提出年月

1 – 2. 目次

2. 報告書要約

※1600字程度で事業成果に関する結論を中心に概要を記載してください

3. 基本情報

この項目では、**対象事業についての基本的な情報を記載してください。**

- (1) 実行団体名
- (2) 実行団体事業名
- (3) 資金分配団体名
- (4) 資金分配団体事業名
- (5) 実施期間
- (6) 事業対象地域

4. 事業概要

この項目では、事業開始時に計画した対象事業の概要を記載してください。記載にあたっては以下の内容が明確になるように記載してください。

- (1) 事業によって解決を目指す社会課題
 - (2) 最終受益者、直接対象グループとその人数
 - (3) 事業の概要（中長期アウトカム、短期アウトカム、活動の概要）
 - (4) 事業設計図（ロジックモデル等）や事業概念図
- ※見直しの変遷が分かるように事前・中間評価実施段階のものも併せてご提出いただいても構いません。
- (5) 事業で目指した出口・持続化戦略の概要

5. 事後評価実施概要

この項目では事後評価計画の概要を記載してください。別途作成している場合は、事後評価報告書と合わせて提出してください。

評価の目的では、どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか、また調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのかを記載します。
評価結果の活用では、事後評価結果をどのように活用すること（誰に何を伝えるのか）を想定しているかを記載します（任意）。

- (1) 実施概要
 - ①評価の目的
 - ②評価結果の活用（任意）
 - ③評価項目と測定方法

※測定にあたって実施した、「調査方法」、「調査実施時期」、「調査対象者」、「調査結果の分析方法」も記載してください。記載の仕方は末ページ記載例を参照してください。
- (2) 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

※実施体制に記載した氏名・団体・役職についても公表される情報となりますのでご留意ください。
- (4) 実施時期

6. 事業の実績

この項目では、インプット、アウトプットの実績を記載してください。それぞれ初期値・目標値・実績値が比較できるように記載してください。実際に投入した金額の実績値については、事後評価報告書作成時における最新の値を記載してください。

資機材については、事業で購入した高額の資機材について、主要なものを記載するか、資産台帳等の添

付でも構いません。自己資金については、契約当初の計画金額、実際に投入した自己資金の金額と種類、資金調達で工夫した点を記載してください。何等かの理由で事業への投入が難しかったものの、事業外で相乗効果をもたらすような取り組みを自己資金で実施した場合にはそちらも記載してください。

6-1. インプット（主要なものを記載）※最新事業計画書のインプット欄を参考にしてください。

- (1) 人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）
- (2) 資機材（主要なもの）
- (3) 経費

※①は最新の資金計画に基づいて記載、②は報告書を記載する時点で分かる実績を記載してください。その際、「20YY年MM月時点」と記載時点が分かるようにしてください。

① 契約当初の計画金額（千円）

- 事業費総額
- 直接事業費
- 管理的経費
- 評価関連経費

② 実際に投入した金額（千円）

- 事業費総額
- 直接事業費
- 管理的経費
- 評価関連経費

(4) 自己資金（千円）

※①は最新の資金計画に基づいて記載、②は報告書を記載する時点で分かる実績を記載してください。その際、「20YY年MM月時点」と記載時点が分かるようにしてください。

① 契約当初の自己資金の計画金額

- ② 実際に投入した自己資金の金額と種類
- ③ 資金調達で工夫した点

6-2. 活動とアウトプットの実績

- (1) 事業で介入を実施した受益者とその数
- (2) 主な活動
- (3) アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載項目】※下記①～④は最新事業計画書から転記してください。

- ① アウトプット
- ② 指標
- ③ 初期値
- ④ 目標値
- ⑤ 実績値

6 – 3. 外部との連携の実績

ここでは、事業の成果を上げるために行った外部との連携実績について、連携先と連携内容について具体的に記載します。

- 行政、企業、NPO、アカデミアなどステークホルダーとの連携や対話について、どの程度実施し（実績数）、どのような工夫をしたのか。
- 市民参加について、合意形成のプロセスはどのように実施したのか。
- 包括的な連携、コレクティブインパクトによる事業組成を実施した場合、その仕組み作りに際してどのような工夫をしたのか。
- 事業に関係する行政等に対し、政策提言や政策提言に向けた取り組みなどをどのように実施したか
- 事業の関係人口の経年変化をとらえたエコマップまたはステークホルダーマップ

7. アウトカムの分析

アウトカムの達成度では、短期アウトカムの初期値・目標値・実績値を記載してください。分析においては、各アウトカムの実績について達成度合いを記載し、その結果について要因や課題を考察し、記載してください。考察する際、短期アウトカム達成の要因が本事業によるものなのか、外部的要因が影響しているのかを注意深く検証することが大切です。

また、短期アウトカムの達成度合いから、中長期アウトカムに向けた展望が見えてきていれば、それについても記載してください。

波及効果では、事業当初には想定していなかった（事業計画書に指標設定がなかった）想定外の成果、波及的、副次的成果について検証し記載してください。事業の効率性は、包括的な支援プログラムとして資源の有効活用や費用対効果について検証します。

7 – 1. アウトカムの達成度

（1）短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載項目】※下記①～④は最新事業計画書から転記してください。

- ① 短期アウトカム
- ② 指標
- ③ 初期値／初期状態
- ④ 目標値／目標状態
- ⑤ アウトカム発現状況（実績）
- ⑥（変更した場合）事前評価時の短期アウトカム

（2）アウトカム達成度についての評価

※複数のアウトカムの達成度を踏まえ、取りまとめ総合的に評価した内容を記載してください。

7-2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

7-3. 出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果 ※後日、補足資料公開予定

7-4. 事業の効率性 ※補足資料参照

8. 成功要因・課題

事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題を考察し、記載してください。要因や課題を考える際、短期アウトカム達成の要因が本事業によるものなのか、外部的要因が影響しているのかを注意深く検証することが大切です。

9. 結論

結論として、総合的に見たときに、課題やニーズの適切性、課題やニーズに対する事業設計の整合性、実施状況の適切性、成果の達成状況のすべてを振り返り、自己評価します。結論は報告書で報告した内容から導かれている必要があります。事業計画で設定した短期アウトカム指標の達成度から事業成果の達成度を導き出していく場合には、判断根拠が分かるように報告書に記載してください。自己評価した際の重要と思う判断根拠や特筆すべき点を自由記載してください。また契約当初の総事業費から数百万円規模で増額・減額している場合や、アウトカム変更を行っている場合には、その変更の妥当性についても自己評価結果を記載してください。

9－1. 社会的インパクト評価の構成要素別自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1) 課題やニーズの適切性					
(2) 事業設計の整合性					
(3) 実施状況の適切性					
(4) 事業成果の達成度					

(1)～(4)までそれぞれ1箇所に○をする。

9－2. 自己評価の判断根拠について

10. 本事業で取り扱った活動を発展させるための提言

今後も地域で社会課題解決のための取り組みを継続的に進めていくうえで、自団体や、地域の誰がどのような役割を果たすことが望ましいのか、「9.結論」までの評価結果を踏まえて記述してください。

＜記載の視点例＞

- 自団体が地域でどのような役割を果たしていく必要があるか
- 今後どのような活動や検討が必要か
- 地域や関係者との連携強化のためにどのような活動が必要か
- 実施体制の工夫、改善はあるか
- 必要な組織基盤強化はあるか
- 活動の財源確保のために必要な活動や検討課題はあるか
- 本事業での成果をどのように活用していくことができるか

11. 事業からの学び・知見・教訓

ここでは事業の経験や学びから、将来、他の地域で実施される類似課題への取組みに参考となる具体的な学びや教訓となり得る事項を記載してください。個々の事業からの学びが休眠預金活用事業全体のナレッジとなり活用されることが望されます。

＜記載の例＞

- コミュニティ醸成（対象地域での関係者同士、実行団体同士など）においての工夫・学びがあったか
- 受益者や事業の関係者（資金分配団体、JANPIA、専門家等）との信頼関係構築にあたっての工

工夫・学びはあったか

- アンケート等調査の実施の難しさへの対応についてどのような工夫・学びがあったか
- 評価の取り組みからの学び
 - ・事前評価時に、捉えている社会課題の構造、直接対象グループやニーズ、事業を取り巻く関係者、ロジックモデルや指標等を見直した過程において、どのような学びがあったのか
 - ・事業中間時点での進捗確認と実施状況の評価をしたことで、どのような改善ができたか
 - ・事後評価時に、設定したアウトカムの評価を行ったことで、どのような学びがあったか
- 実行団体から見て資金分配団体の伴走支援で一番役立ったことは何か

12. 資料（別添）

ここでは、以下のような事業の成果を伝える補強となる資料を別添でご提出ください。過去に提出したもののは再提出していただく必要はございません。

- 事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
- アンケート調査結果や実際に使用した調査票
- 事業の様子がわかる写真資料

※公開可能な写真を貼付してください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください）
- 広報活動の成果品、報道された記事
- とりまとめられた白書などの事業の成果物
- 論文、学会発表資料
- 特許 など

■参考■

調査概要を記載する際は、下記の記載項目を記載するようにしてください。記載内容は下記をご参照ください。

記載項目	定量的な評価の場合	定性的な評価の場合
調査方法	アンケート調査（主な項目も記載）	インタビュー調査
調査実施時期	20XX年XX月～20XX年XX月	20XX年XX月～20XX年XX月
調査対象者	事業の対象となったXX人のうち、XX人を無作為抽出にて選定し～。回収者数X人（回収率X%）であった。	事業の対象となったXX人のうち、最も特徴的な変化を示したX人を対象にした。その選定方法として～。
調査結果の分析方法	xxとxxについてクロス集計を行った。	調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。